

「元気いっぱい遊び、好奇心旺盛な子どもを育てるために」
～体を動かして遊ぶ活動を通して～

学校名 奄美市立赤木名幼稚園（鹿児島県）

全校幼児数 16名（男児 6名 女児10名）
（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0997（63）0072

メールアドレス nniiro@city.amami.lg.jp

1 研究のねらい

園内・園外活動の見直しや環境設定の工夫等により体を動かす活動や遊びを多く体験させ、体を動かす楽しさを味わわせることで、元気よく遊ぶ子供が育つのではないかと。

2 研究の概要

車の送迎による登園が頻繁に見られ、園庭が狭いことから、日常の運動量が少ない現状があった。このような課題を解決する運動プログラムを作成し、運動能力テストや運動量、保護者の意識調査から、プログラムの効果について検証した。

○実践プログラムの紹介

□ 体を動かす機会の確保

（1）園外活動の見直しの例

これまでは園の近辺を散歩するだけであったが、子供たちが好きな海や遊具がある小学校まで歩く等、少し離れた場所への散歩を取り入れるようにした。楽しい目的地なので意欲的に歩く様子が見られ、結果的に運動量の確保につながった。



（2）環境設定の工夫例

ア 地域の方に分けて頂いたサナギが羽化し、蝶になった際に、園庭を飛び回る蝶を追いかける園児の姿があった。これにヒントを得て、虫取り網を置いたところ、捕まえるまで必死に走り回るようになった。

イ 運動遊び研修会で紹介があった右写真のような用具を設置した。（ひもに筒を通してある。筒を持って投げると高い方にロケットのように飛んでいくので、喜んで何度も投げる。）



○幼児の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 全園児での活動の際には、運動遊び指導員の派遣を要請し、チームティーチングを行った。
- 2 全員が同じ活動になると、園庭が狭いため、園児同士がぶつかる危険が想定された。そこで、虫取り網や虫かごの数を取って不足させる等、園児数とスペースのバランスを考慮した。

○成果の意義と今後の課題

1 園内・園外活動の見直し

新奇な実践を企画しなくても、これまで実施してきた活動を見直すことで運動量の確保につなげることができた。活動が形骸化しないよう園児が楽しむことができる活動を企画していく必要がある。

2 環境設定の工夫

園児の様子をじっくり観察し、興味を持つ音楽の活用や、場の設定により、園児の主体的な活動を促すことができた。基本的な動作の獲得が促されるように、運動プログラムや環境設定を改善する。

○ 研究内容

お気に入りの音楽で！

園児が好きな音楽を流すと体がよく動きました。



鬼ごっこで狭い園庭でも運動量が豊富に！

「バナナ鬼」や「色鬼」等様々な鬼ごっこに取り組みました。



新しい用具に興味津々！

見たことがない用具でさらに運動量が増えました。



地面で綱渡り！

平均台はなくても線を引くだけで類似の運動ができました。



本事業により子供・保護者共に変わりました！

運動能力や子供の様子、保護者の意識が肯定的に変容しました。

6月と1月に実施した運動量調査では特に変化が認められなかったものの、運動能力テストでは、25m走、立ち幅跳び、ボール投げ、体支持時間の4種目において統計的に有意な向上が認められた。

保護者への意識調査では、本事業をとおして73%の家庭が親子共に変わったと回答した。その中で、「子どもが楽しそうに体を動かすようになった。」「子どもと体を動かす時間が増えた。」と回答する割合は約60%であり、事業による成果と考えられる。また来年度以降もこの事業を継続して欲しいと記述した保護者が半数を超えたことから、意識の啓発も十分に図られたと考えられる。

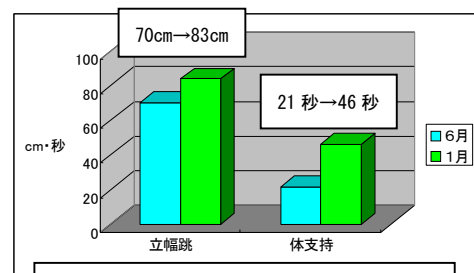


図. 立幅跳・体支持時間の結果の変容

さらに運動遊びの楽しさを！

運動遊び指導員を積極的に活用すると共に、親子で楽しく運動する機会を増やしていきます。

各種調査や教諭らによる園児観察により、園児の実態を的確かつ継続的に捉えていく。平成26年度に奄美市が始める「幼稚園運動遊び指導員派遣事業」を有効に活用して、実態に合った運動プログラムの改善や環境設定に取り組む。また、家庭でも親子で積極的に取り組みたいという保護者からのニーズが高かったことから、「親子運動遊び教室」等を企画する。運動を通して親子で触れ合う機会を増やすことによる副次的な効果（コミュニケーションの増加等）についても期待したい。